

SST 普及協会 30 周年記念事業

人とつながるソーシャルスキル
～SST で温かい社会を創ろう！～

募金趣意書

一般社団法人 SST 普及協会
創立 30 周年記念事業
募金委員会

募金依頼書

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より、一般社団法人 SST 普及協会（以下、普及協会）の活動に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

普及協会は、“社会生活スキルトレーニング（SST: Social Skills Training）を必要とする人はだれでも受けられるように“をモットーに普及活動に取り組んでおります。

普及協会の30周年事業を展開するに当たって、私たち有志で募金委員会を組織し、広く企業・団体・組織のみなさまに募金をご依頼さしあげております。

集まった募金は、普及協会が展開しております、30周年記念事業にかかる費用として活用させていただきます。

ご協力を賜りますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

令和6年11月末日

一般社団法人 SST 普及協会創立30周年記念事業

募金委員会 委員長 樋口輝彦

副委員長 岡田久実子



【問い合わせ・送付先】

一般社団法人 SST 普及協会事務局

〒104-0045

東京都中央区築地 2-3-4-9F

杜陵印刷株式会社 内

E-mail・jimukyoku@jasst.net

Tel : 03-3547-9664

Fax : 03-3547-9684

(一社) SST 普及協会創立30周年記念事業募金委員一覧

(あいうえお順)

朝日雅也 (埼玉県立大学 名誉教授職業リハビリテーション学会長)

石郷岡純 (浜野ホスピタル 院長)

岩田仲生 (藤田医科大学医学部精神科 教授)

宇田川健 (認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ 共同代表)

岡田久実子 (みんなねっと 全国精神保健福祉連合会事務局) ○

笠井清登 (東京大学医学部附属病院 精神神経科 教授)

加藤進昌 (公益財団法人神経研究所 理事長)

兼行浩史 (山口県こころの医療センター 院長)

神庭重信 (飯田病院、精神神経学会 前理事長)

JUN (アーティスト)

武田雅俊 (大阪河崎リハビリテーション大学学長、精神神経学会 元理事長)

田村綾子 (聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科 教授、同大学副学長／心理福祉学部長、
公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 会長)

辻本哲士 (滋賀県立精神保健福祉センター長、全国精神保健福祉センター長会 会長)

戸ヶ崎泰子 (宮崎大学 教育学部 教育学研究科 教職実践開発専攻 教授)

中川伸 (山口大学大学院医学系研究科 高次脳機能病態学講座 教授)

中込和幸 (国立精神・神経医療研究センター 理事長)

樋口輝彦 (六番町メンタルクリニック、国立精神・神経医療研究センター 前理事長) ◎

平田オリザ (芸術文化観光専門職大学 学長)

福田正人 (群馬大学・名誉教授)

藤沢大介 (日本認知療法・認知行動療法学会 事務局)

前田ケイ (SST 普及協会顧問・名誉会員、ルーテル学院大学 名誉教授)

向谷地生良 (社会福祉法人浦河べてるの家、北海道医療大学大学院・学部・先端研究推進セ
ンター 特任教授)

村井俊哉 (京都大学大学院医学研究科・医学部 精神医学 教授、講座担当者会議 議長)

凡例：◎：委員長、○：副委員長

一般社団法人 SST 普及協会 会長・副会長からのご挨拶

SST 普及協会	会長	丹羽真一	副会長	安西信雄
	副会長	河岸光子	副会長	池淵恵美

日頃より SST 普及協会の事業にご理解とご支援を頂きまして、誠にありがとうございます。この度の募金委員会からの依頼に際しまして、SST 普及協会の会長をいたしております私からも、ご挨拶申し上げます。SST 普及協会は 1995 年（平成 7 年）に設立されたから、2025 年（令和 7 年）に創設 30 周年を迎えますので、30 周年を記念する事業を種々展開しようと考えておりますが、自己資金や記念行事への参加費のみで賄えない分を個人・団体・企業からの募金、民間財団からの助成やクラウドファンディングなどにより補いたいと考えております。

このたび関連各界で御活躍の先生方にご理解をいただき募金委員になっていただくことができました。募金委員会の先生方のご指導をいただきながら本協会会員が募金活動を積極的に行うこととなります。

協会は発足当初は主に精神疾患を持たれた成人や小児の方の社会参加促進の領域で SST（社会生活スキルトレーニング）の普及を図っておりましたが、この 30 年間の普及活動の結果、現在では医療・教育・福祉・矯正教育及び更生保護、さらに市民生活など、幅広い領域で生きづらさを抱える人々の社会参加と生活の質の向上のための SST として行われるようになっております。私どもは、本協会のミッションを次のように考えております。

一般社団法人 SST 普及協会のミッション

社会生活スキルが不足しているために日々の生活で生じる困りごとを、周囲の支持も借りながら自分の力で乗り越えられるようになりたい。—その実現を手助けするのが社会生活スキルトレーニング(SST)です。私たちは SST の普及と発展を通して

1. 生きづらさや孤立感が減って生活の質が改善され、当事者が望む社会参加が進むことを支援します。
2. その際、当事者の強みを生かし、希望や価値観・主体性を尊重することを重視します。当事者と支援者が対等の立場で協力して課題に取り組む文化を広め、温かい社会作りに貢献します。
3. そのために、SST の支援技術を持つ人を増やし、全国どこでもニーズのある人に SST を提供できるよう努めます。

本協会ではこうした発展の経緯を踏まえまして、30周年記念事業を「人とつながるソーシャルスキル—SST で温かい社会を創ろう！」を合言葉として種々の事業を展開しようとしています。こうした事業といたしましては、本協会前会長であられた西園昌久先生の「SSTと精神療法」(金剛出版)の2023年(令和5年)出版を嚆矢としまして、ITの進歩を背景に3DVR(三次元ヴァーチャル・リアリティ)を活用したSST-VR(FACEDUO、大塚製薬)の監修、2024年(令和6年)7月の第29回SST普及協会全国経験交流ワークショップ(盛岡)における2つの30周年記念セッション開催、再びSSTを全国の施設にお届けするSSTアンバサダー事業、2025年(令和7年)の30周年を前にした30周年記念プレ大会開催(2024年11月)、2025年(令和7年)7月の30周年記念本大会開催、その記念行事に海外の高名なSST研究者を複数招聘した講演会の開催、全ての30周年記念事業が終了した後のオンラインジャーナル「心理社会実践研究」(仮称)の発刊を行います。これらの事業を通して、SSTが我が国の津々浦々まで浸透して、社会の中で生きづらい人たちが少しでも減少することを目指したいと思います。

こうした諸事業の展開にそなえ協会では記念事業のための基金の積み立てを行ってまいりましたので、その基金を用いて記念事業を遂行してまいりますし、諸行事への参加の方々からの参加費もいただいておりますが、それだけでは必要経費を賄いきれないものと考え、30周年事業の意義あるところをご理解いただける皆様からの募金を、募金委員会の先生方のご指導の下で行ってまいりたいと考える次第でございます。記念事業の遂行の予算と募金の目標額などにつきましては後掲の予算案をご参照くださいますようお願い申し上げます。募金目標といたしましては500万円を想定いたしております。

「温かい社会を創る」うえでのSST普及協会の事業の発展にご理解とご支援を賜り、募金にご協力を頂けますようお願いを申し上げます。よろしく申し上げます。

令和6年8月末日

1. 事業実施協会の名称

一般社団法人 SST 普及協会（以下、当協会）

（欧文名は Japanese Association of Social Skills Training, JASST ）

2. 協会の目的と沿革

対人場面で適切に状況を判断し相手から好ましい反応が得られるように行動できる能力が社会生活技能(Social Skills)です。こうした技能の学習を認知と行動の両面から体系的に進める方法が、「社会生活スキルトレーニング(Social Skills Training; SST)」*です。対人関係を中心とする社会生活技能のほか、服薬自己管理・症状自己管理などの疾病自己管理技能の学習を促す方法などが開発されています。わが国でもその効果が認められ、1994年4月に「入院生活技能訓練療法」として診療報酬に組み込まれました。

当協会は全国に SST を普及し、精神科リハビリテーションを発展させるとともに、広くメンタルヘルスの向上に寄与することを目的として、1995年2月5日に設立されました。現在、丹羽真一会長（福島県保健福祉部、福島県立医大会津医療センター特任教授）のもと、執行委員12名、理事24名が運営にあたっています。令和5年度末（令和5年9月末日）時点の会員数は、正会員998人、賛助会員108施設となっています。当協会は、ニューズレター発行（年2回）、日本各地での SST 研修会の技術的援助、研修会講師の養成、そして SST に関する知識や治療技術、研究面での発展など様々な視点から、会員相互の情報交換や相互研鑽の会を開催しております。

当協会は2002年12月に定款の第3条（目的）を、「本会は、日本各地での SST の普及と精神科リハビリテーションの発展、ならびにメンタルヘルス、市民生活の質の向上に貢献することを目的とする」と改訂しました。以後現在まで、従来の「精神科リハビリテーションの発展」に「メンタルヘルス、市民生活の質の向上」を加え、より幅広い分野での普及・活用を目指して活動してまいりました。

当協会は2005年5月に埼玉で開催された公益社団法人 日本精神神経学会第101回総会で精神医療奨励賞を受賞しました。わが国の精神科医療・保健・福祉は入院医療中心から地域生活支援中心への転換が求められていますが、こうした中で、「地域生活を支援する発想と技術を医師のみならず幅広いコメディカル・スタッフに普及させ、精神障害者の地域生活支援への貢献が認められる」と評価されたものです。授賞対象業績として、①精神障害を持つ人の希望の尊重、個別のアセスメント、目標設定、系統的な練習による対処技能向上などの指導技術の普及に努めてきた結果、「希望を尊重し、出来ないことより出来ることを伸ばす」という精神障害リハビリテーションの理念が普及し、医療機関にとどまらず、各種社会復帰施設、就労支援、矯正教育や更生保護事業、障害児教育、児童精神保健など、幅広い領域に SST が普及したこと、②全国規模の経験交流会や学術集会、研修システム（認定講師が各地で指導

に当たる)、ニューズレター発行が普及に貢献したことがあげられています。

精神科医療は新規非定型抗精神病薬や新規抗うつ薬の登場によって新たな可能性が切り開かれました。しかし、これらの新しい薬物は単独で効果を発揮するよりも、SSTをはじめとする心理社会的プログラムと組み合わせて実施されるときに優れた効果が発揮されることが明らかになっています。精神科医療においてSSTは、対人関係・対処能力の向上(基本訓練モデル等)、服薬アドヒアランスの向上(服薬自己管理モジュール等)、症状自己管理技能の向上(症状自己管理モジュール等)、さらにこれらを総合した「退院準備プログラム」による退院促進活動などに活用されており、新規薬物療法とSSTとの効果的な組み合わせによる効果的な治療実践とQOLの向上が期待されています。

近年当協会では、内発的動機付けを重視し、当事者との共同作業(co-production)で目標や課題、練習内容等を設定していく共同創造型 co-productive SST(co-SST)の開発にも着手しています。

*当協会では、令和2年8月にSocial Skills Trainingの日本語表現を見直し「社会生活技能訓練」から「社会生活スキルトレーニング」に改訂しました。「訓練」という言葉の一種強制的、指導的意味合いを払拭し、自ら学ぶことを基本とし何らかのスキルを学びたい人を支援するプログラムであることを明確にするためです。

3. 事業内容

1. 2025年の記念行事の実施
2. 書籍・記念誌などの刊行
3. プレ大会の開催による事業の周知と普及
4. 各領域に対する普及活動
5. 各領域におけるSSTに関する情報交換・研究
6. その他本事業の目的を達成するために必要な活動

4. これまでの活動実績と今後の予定(令和5年7月~令和8年7月)

2023年7月 第28回SST全国経験交流ワークショップ in名古屋(220名参加)

- ・丹羽会長講演:『SST普及の30年ー現在地から先を見渡す』
- ・鼎談:『働くことに大切なソーシャルスキル~地元の企業経営者を交えて~』
講師:夏目 浩次(一般社団法人ラ・バルカグループ 理事長・QUON CHOCOLATE プロジェクト 代表)
齋藤 秀一(株式会社ネットアーツ 代表取締役・株式会社まなぶ 取締役会長・株式会社ココトモファーム 代表取締役)
高木 友徳(医療法人糸逢会 理事長・株式会社 Wellness and Recovery Promotion 代表取締役・株式会社ともプロダクション 取

締役)

- ・シンポジウム：『日々に根ざした SST』

座長：福永 佳也（大阪府岸和田子ども家庭センター、SST 普及協会学術委員）

シンポジスト：1. 当事者の方（ともこころのクリニック）

2. 小島 正嗣さん（名古屋市精神障害者家族会連合会）

3. 池戸 裕子さん（児童心理療育施設 桜学館）

- ・『SST と精神療法』（西園）の著書販売 など

2023 年 10 月 SST アンバサダー募集開始

※SST アンバサダーとは

SST アンバサダーは、大使となって SST を届けるボランティアです。SST の説明会を希望する施設を広く全国に募集し、説明会の依頼があった時に、いろいろな領域で行われる SST に共通する一般的な SST の基本について説明します。

2023 年 12 月 SST 普及協会第 27 回学術集会 in 金沢（157 名参加）

- ・大会長講演：『発達障害の特性を理解した関わりを目指して』

演者：菊知 充（金沢大学 精神行動科学講座教授）

座長：角田 雅彦（石川県こころの健康センター所長

/発達障害支援センター所長）

- ・安西信雄副会長講演：

「SST を一歩前へー協会創立 30 周年に向けて仲間と取り組んでいる挑戦」

- ・パネルディスカッション「これからの SST に望まれるもの

ーわかる・伝わる・つながる力を高める」

2024 年 7 月 第 29 回 SST 全国経験交流ワークショップ in 北東北

- ・30 周年記念事業シンポジウム：【医療領域で共同創造型 SST (co-SST) はなぜ必要か、どうやって実現したらよいか】

テーマ「医療領域で協同創造型 SST (co-SST) が必要な理由は何か」

講師：池淵恵美（土田病院・ひだクリニックお台場 医師）

テーマ「精神科急性期および慢性期在院患者の実態と共同創造型 SST の可能性」

講師：河岸光子（吉祥寺病院（非常勤）看護師）

テーマ「精神科デイケアでこそ共同創造型 SST (co-SST) が必要とされている」

講師：津端亮介（もりやま総合診療病院 臨床心理士）

・30周年記念事業：【SSTの新たな普及の試み】

テーマ「FACEDUO」を導入した使用経験

講師：鈴木りほ（社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院）

テーマ「FACEDUOによるSST研究の計画

講師：高野隼（関西医科大学医学部 精神神経科学講座）

テーマ「VRを用いたSSTの世界動向

講師：丹羽真一（福島県立医科大学 会津医療センター精神医学講座）

テーマ「SSTアンバサダーとして」

講師：松宮千土里（パーソナルダイナース株式会社）

・分科会

分科会1：テーマ「誰でも参加できるSST」

講師：大塚成仁（健生クリニック）

分科会2：テーマ「ライブ小中高生向けSST」

講師：佐藤史教（岩手県立大学看護学部）

分科会3：テーマ「更生支援～地域で生きるを応援する～」

講師：片柳光昭（全国SST保護司研修責任講師）・北東北の保護司

司会進行：八木原律子（明治学院大学名誉教授）

コーディネーター：品田秀樹（新潟県長岡地区保護司会副会長）

分科会4：テーマ「初級研修会の効果を高めるために事前学習の教材を作る」

講師：浅見隆康（メンタルプラス家族支援訪問クリニック）

分科会5：テーマ「東日本大震災の被災地域における心のケアと予防的見地

～自然災害後の我が街、我が暮らしの回復と支援のために～」

講師：片柳光昭（みやぎ心のケアセンター 仙台G&Aクリニック）

・特別一般公開講座：山口達也さん

・北東北支部特別企画：シンガーソングライターJUNさん

2024年11月23日～24日 プレ大会

・シンポジウム：「これからのSST」

「人と人がつながる温かい社会に向けて」

—各領域での共同創造型 SST (co-SST) の取り組みと活用可能性—
「教育現場における SST の実践と課題、今後の可能性について」

・分科会

「精神障害を持つ人の地域生活を支える支援者養成と SST の活用」

—前田ケイ先生の経験をうかがい医療領域各職種の実践を考える—

「思春期対象のソーシャルスキルトレーニング PEERS について」 (仮)

「就労支援の SST : 当事者にとっての『転ばぬ先の』スキルを探るときの支援者の心構えとは」

「全国の家族に SST を届けよう！」

～全国で展開されている家族への SST の現状と課題～

「矯正・保護をつなぐ SST～発達障がい・知的障がいをもつ対象者の支援をとおして」

2025 年 7 月 5 日～6 日 記念行事

1. 全領域共通 (横断企画) I

タイトル: 『SST で温かい社会を創るために～広がる SST の可能性
～co-SST は温かな社会をどのように育むか～ (仮) 』

企画趣旨:

2025 年記念行事である本大会の開催意義を明確にするために、記念事業のスローガンである「人とつながるソーシャルスキル—SST で温かい社会を創ろう！」にそったパネルディスカッション『SST で温かい社会を創るために』を開催する。

2. 全領域共通 (横断企画) II

タイトル: 『SST のここが好き！—当事者からみた SST の良いところ・お役立ちどころ—』

企画趣旨:

当事者から見た SST の良いところ・お役立ちどころを、当事者主体で SST を実践してこられた当事者自身から聞かせていただくことにより、新たな視点で SST の意義を考える機会としたい。領域を超えてこのテーマで議論すること

により、本大会テーマ「SST で温かい社会を創るために」に沿い、当事者が SST に何を期待しているか、支援者は当事者の思いを受け止めて何をすべきかが明らかにされるであろう。ともに SST の活用と発展を考えることは、まさに共同創造の機会となる。熱のこもった議論を期待したい。

3. 医療領域

タイトル：『「地域で暮らす！」を支える SST－訪問看護・居住支援と地域ケアの実際』

企画趣旨：

精神障害などによる困難をかかえた人たちも地域で安心して暮らせる「温かい社会」を作るために、当事者の思いを受けとめ伴走しながら効果的な支援を実施出来る地域生活支援者の育成が重要な課題となっている。その中心になるのが当事者のつらさに共感し受けとめて希望実現に向けて共に歩む SST マインドと支援技法である。ここでは「地域で暮らす！」という当事者の希望を支えて実践している訪問看護、グループホーム等の居住支援および様々な地域ケアの実際を紹介し、SST を用いた地域生活支援の可能性と展望を語り合いたい。

4. 家族領域

タイトル：『「全国の家族に SST を届けよう！」その2
～全国で展開されている家族への SST の実践から新たな家族へ
SST を広げ、高めよう～』

企画趣旨：

プレ大会①は、それぞれの団体や会で実施されている SST を知ることにについて重きを置くが、本企画では実際の進め方をデモンストレーションを中心に展開し、今後の家族 SST の広がり、深まりについて各団体の実践からヒントを得ていこうとするもの。

5. 福祉領域

タイトル：『誰でも SST』

企画趣旨：

日本各地で行われている誰でも SST について、地区ごとの代表者にお話しして頂き、会場の皆さんにも参加して頂く。

6. 教育領域

タイトル：『場面カードを使って SST をやってみよう！（ワークショップ形式にて）』

企画趣旨：

プレ大会で募集し集計して作成した「場面カード」から何枚かのカードを使って実際に SST を会場で実践してみる。実践者は 2 名程度とし、参加者の人数によってグループ分けをして行う。

実際に「場面カード」に活用方法などの実践を通して知ることができる参加型のワークショップ形式。ワークショップ参加者には「場面カード」を活用可能な実践の場も考えて共有してもらおう。

7. 就労領域

タイトル：『正解のない「職場」の問題解決を支える SST』

企画趣旨：当事者と支援者との協同性を育む支援者側の心構えと、複雑な就労場面に対して柔軟にトレーニングを実施する支援スキルを、デモンストレーションを通して提案する。

8. 矯正教育・更生保護領域

タイトル：『矯正保護現場の SST を学ぼう』

企画趣旨：矯正・保護の各分野（少年院、刑務所、更生保護施設、保護司面接など）では、指導者不足や新たな取り組みの導入等により、SST の活用が下火になっている分野がある。この企画では、矯正・保護の現場でどのように SST が行われているかをデモンストレーションを交えながら紹介いただく。その上で、それぞれの取り組みを、従来の SST（b-SST）、共同創造型 SST（c o o-SST）に整理するとともに、SST の基本や有効的な活用方法等を伝えることで、矯正・保護領域で働く方に SST を正しく知ってもらい、関心を高め、この領域での SST 熱を高めていくきっかけとしたい。

9. 海外招聘企画 I

タイトル：『PEERS®（Program for Education and Enrichment of Relational Skills）』（仮）（Dr.Elizabeth Laugeson）

思春期の自閉スペクトラム症（ASD）や社会性に課題のある子ども達に向けて作成されたプログラムで、認知行動療法理論と保護者のサポートを基本原理としており、グループで取り組みます。カリキュラムは、社会適応に重要な役割を果たす“友達作り”と、その良い関係を維持していくために必要なスキルに焦点を当てられています。このプログラムは北米を始めとして世界各国の研究で効果検証がされ、その効果が認められたエビデンスのあるソーシャルスキルトレーニング（SST）であり、その実際についてお話しいたします。

10. 海外招聘企画Ⅱ

タイトル：『認知行動 SST』（仮）（Eric L. Granholm, PhD）

SST と認知療法を統合した CBSST や SST のモバイルへの活用など、SST の技法と実践を対象のニーズに応じて活用し展開していくアイデアや理論・技法を学べることを期待できます。こうした CBSST の実践についてお話頂きます。

2025 年 12 月頃 四国学術集会

2026 年 7 月頃 北海道経験交流

記念誌の発行

5. 30周年記念事業予算計画

<プレ大会>

収入				単価	人数等	予算額
協会準備金				500,000	1	500,000
参加費	分科会等	会員	事前登録	8,000	100	800,000
			当日	10,000	40	400,000
		非会員	事前登録	10,000	60	600,000
			当日	12,000	20	240,000
		学生・家族 当事者		2,000	10	20,000
昼食費			1,000	100	100,000	
懇親会費			5,000	100	500,000	
出展料			30,000	2	60,000	
広告費			50,000	2	100,000	
寄附金			700,000	1	700,000	
企業セミナー			500,000	1	500,000	
小計						4,540,000

支出						
会場費	教室会場費					743,600
	光熱費			22,000	2	44,000
	食堂			71,500	1	71,500
	警備費			1,760	10	17,600
	看板作成費			30,000	-	-
	花代			30,000	-	-
参加者昼食費			1,000	100	100,000	
人件費	大会当日ボランティア2日間			10,000	10	200,000
	ボランティア昼食代			1,000	10	20,000
	実行委員会旅費等			40,000	1	40,000
講師謝金等	講師謝金					
	講師交通費					
	講師昼食費					
	小計					1,100,000
事務委託費	ホームページ作成・管理費					
	ポスター・チラシ・プログラム					
	抄録集印刷・郵送					
	参加証作成					
	小計					1,339,000
オンライン対応費			100,000	1	100,000	
懇親会費			5,000	100	500,000	
雑費			100,000	1	100,000	
予備費			150,000	1	150,000	
小計						4,525,700
収支						14,300

<記念行事>

収入				単価	人数等	予算額
協会準備金				1,000,000	1	1,000,000
参加費	分科会等	会員	事前登録	10,000	180	1,800,000
			当日	12,000	50	600,000
		非会員	事前登録	10,000	100	1,000,000
			当日	12,000	50	600,000
		学生・家族		2,000	20	40,000
		当事者		2,000	20	40,000
昼食費			1,000	100	200,000	
懇親会費			5,000	100	500,000	
出展料			30,000	2	60,000	
助成金・補助金			2,000,000	1	2,000,000	
広告費			50,000	2	100,000	
			10,000	10	100,000	
寄附金			2,400,000	1	2,400,000	
企業セミナー			500,000	1	500,000	
クラウドファンディング			10,000	10	100,000	
合計					11,040,000	

支出						
会場費	教室会場費					743,600
	光熱費			22,000	2	44,000
	食堂			71,500	1	71,500
	警備費			1,760	10	17,600
	看板作成費			30,000	1	30,000
	花代			30,000	1	30,000
参加者昼食費			1,000	100	200,000	
記念式典	記念品代			3,000	250	750,000
	郵送費			370	100	37,000
	来賓旅費			5,000	10	50,000
人件費	大会当日ボランティア2日間			10,000	10	200,000
	ボランティア昼食代			1,000	10	20,000
	実行委員会昼食代			1,000	20	40,000
	実行委員会旅費等			40,000	1	40,000
招聘講師報酬等	旅費			1,000,000	2	2,000,000
	報酬			500,000	2	1,000,000
	宿泊費			50,000	6	300,000
	通訳			100,000	2	200,000
講師謝金・交通費等					2,000,000	
事務委託費	ホームページ作成・管理費					
	ポスター・チラシ・プログラム					
	参加証作成					
	抄録集印刷					
	小計					2,002,000
抄録集郵送費			370	800	296,000	
オンライン対応費			100,000	1	100,000	
懇親会費			5,000	100	500,000	
懇親会招待費			5,000	10	50,000	
懇親会余興費			100,000	1	100,000	
雑費			100,000	1	100,000	
予備費			150,000	1	150,000	
合計					11,071,700	
収支					-31,700	

<記念誌>

収入	単価	個数	
積み立て金	1,000,000	1	1,000,000
募金	1,900,000	1	1,900,000
クラウドファンディング	10,000	90	900,000
合計			3,800,000

支出	単価	個数	
テープ起こしなど	50,000	2	100,000
印刷・製本費用	1,400	2,000	2,800,000
梱包料金	20	2,000	40,000
小計			2,940,000
消費税(10%)			3,234,000
郵送費	140	2,000	280,000
クラウドファンディング経費	140,000	1	140,000
クラウドファンディング返礼品	1,000	100	100,000
返礼品郵送費	370	100	37,000
合計			3,791,000
収支			9,000

寄付金募集要項

1. 募金の名称
SST 普及協会 30 周年記念事業寄付金
2. 募金の目的
一般社団法人 SST 普及協会 30 周年記念事業の運営資金調達
3. 募金目標額
5,000,000 円
4. 募金期間
2024 年 10 月 1 日～2025 年 6 月 30 日
5. 寄付金の使途（「収支予算案」参照）
一般社団法人 SST 普及協会の 30 周年記念事業の運営費に充当する。
6. 寄付金募集責任者
加瀬昭彦 一般社団法人 SST 普及協会 財務委員会委員長
7. 寄付申込書送付先
寄付金のお申込みは、趣意書に綴込みの寄付申込用紙にご記入の上、下記にご送付下さい。
一般社団法人 SST 普及協会事務局
〒104-0045
東京都中央区築地 2-3-4-9F
杜陵印刷株式会社内
E-mail: jimukyoku@jasst.net
Tel. 03-3547-9664 Fax. 03-3547-9684
8. 寄付金払込口座
ゆうちょ銀行 記号：11320 番号：12809371
名義：一般社団法人 S S T 普及協会
カナ：シャ) エスエステイフキユキヨウカイ

※ゆうちょ銀行以外からの送金は
ゆうちょ銀行 一三八（イチサンハチ）支店 普通口座 1280937
名義：一般社団法人 S S T 普及協会
カナ：シャ) エスエステイフキユキヨウカイ
9. 本件に関するお問い合わせ
SST 普及協会 財務担当理事 加瀬昭彦
244-0813 神奈川県横浜市戸塚区舞岡町 3482 横浜舞岡病院
Tel: 045-822-2125 e-mail: CZG01164@nifty.com

寄 付 申 込 書

一般社団法人 SST 普及協会
創立 30 周年記念事業募金委員会
委員長 樋口輝彦 殿

SST 普及協会 30 周年記念事業の趣意に賛同し、下記の金額を関連諸行事の開催・運営の経費として寄付いたします。

金 _____ 円也

年 月 日

ご芳名： _____ 印

ご住所： (_____) _____

電話番号： _____

ご担当者名： _____

創立 30 周年記念事業本大会ホームページに寄付者として名称等の掲載を希望しません。（ に が ない場合は、掲載させていただく予定です。）

この用紙を郵送、FAX または PDF データをメールにて下記にお送り下さい。

送付先

一般社団法人 SST 普及協会事務局
〒104-0045 東京都中央区築地 2-3-4-9F
杜陵印刷株式会社内
E-mail: jimukyoku@jasst.net
Tel. 03-3547-9664 Fax. 03-3547-9684